

ダイコンの栽培法

2011/10/10

日本種苗協会長崎県支部/市川種苗店

※一部又は全部の引用を禁止いたします

タネまき

大根づくりは耕土が深く保水性があり、排水性に優れた肥沃な土づくりが必要である。また、岐根を防ぐためにも深く耕し土を細かくしタネの下には直接肥料を施さないようにする。完熟堆肥の施用で膨軟な土壌を作ることがたいせつであるが、未熟堆肥の施用は窒素飢餓を起こしたり、未熟有機物を分解する微生物、餌とするキスジノミハムシなど俗に根虫と呼ばれる害虫の繁殖を助長するので特に注意する。(根菜類一般に言えることであるが、堆肥はできるだけ一作前の季節に投入するようにし、直前の投入は可能な限り控えるほうが良い。)うね巾60~70cm、株間23~

25cmの高うねとし、4~5粒の点まきとする。播種後5mm程度の覆土の上から軽く押えて十分に水をかける。

施肥

肥料は元肥を主体として初期生育を順調にさせること。1㎡あたり成分量で窒素15~20g、リン酸15g、カリ15gが標準である。8:8:8の配合肥料を用いた場合窒素成分で計算すると、全量元肥の場合、180g/㎡程度となる。

間引き

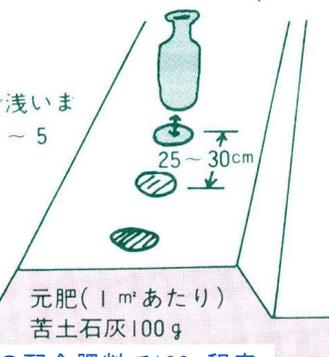
播種後2~3日もすれば発芽するので、子葉

が重なり合わないように入引き、その後も常にとり同志の葉先がふれ合わないように入引きを行う。間引きの際残した苗を傷つけないよう注意する。1本立にしてからうね間に追肥し中耕しながら土寄せをする。

収穫

収穫が遅れると過熟になってス入りが生じるので適期に収穫することである。秋蒔き適期栽培で播種後2~2.5ヶ月で収穫期に達する。最近のス入りの遅い品種で2ヶ月以上圃場においておく場合は追肥が必要となる。施肥量は上記元肥の1/3程度でよい。

1 タネまき



ビール瓶の底などで浅いまき穴を作り、1穴4~5粒のタネをまく。覆土は5mm位とし、上から軽く押えて敷きワラ、水やりする。

元肥(1㎡あたり) 苦土石灰100g

8:8:8の配合肥料で180g程度

60~70cm

元肥は全面に施し、深耕して土を細かくする。排水性の悪いところでは高うねとする。

2 間引き となり同志の苗の葉先が常にふれ合わないように入引き。



本葉1枚で 3本立て
本葉3~4枚で 2本立て
本葉6~7枚で 1本立て

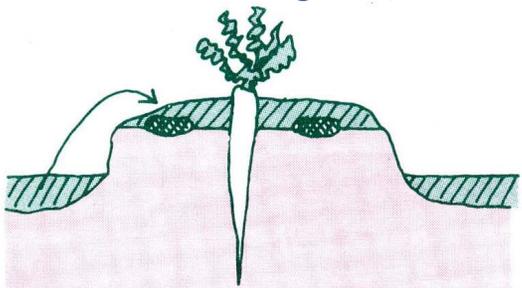
取り除く苗は

- 子葉が変形のもの
- 大きすぎるもの、小さすぎるもの
- 葉の色が濃いもの、薄いもの
- 胚軸の色の違うもの
- 病害虫の被害のあるもの など、

間引きのあとは必ず土寄せして倒伏を防ぐ。

3 土寄せ、追肥

土寄せ時に追肥を行う時は8:8:8の配合肥料で50~60g/㎡程度とする



1本立ちになれば、生育をみながら株間やうねの肩に追肥を施し、株元まで土寄せする。